



「『相互扶助』って言葉を知ってる？税があるから私たちは『健康で文化的な生活』が送れるのよ」

「相互扶助」とは、一言で言うならば「互いに助け合う」ということだ。税がどうして助け合いなのか、私には理解出来なかった。私たちは個人や民間では出来ないような公共サービスや公共施設を享受しているが、それらを提供するためには多くの費用が必要である。その費用をみんなで出し合い、負担しているのが税だ。「すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を有しており、税がその実現を可能にしている。私たちの学校にも税が使われているが、その額が中学生一人当たり年間約九十八万というから驚きだ。税のおかげで、私たちはより小さな負担で安心や安全、豊かさを手に入れているのだ。

人は思いがけない病気やけが、災難に遭い、自分の努力だけでは解決できず、今までのような自立した生活を維持できなくなるものが

ある。税はそうした「万が一」に対して「一人は万一人のために、万人は一人のために」という理念のもと、社会保障制度を支えている税による支援は、困窮した人々にもう一度社会に復帰し、挑戦しようという勇氣と希望を与えてくれる。私たちの社会は、何度でも再起できる社会でなければならぬんだ。

税金は「納める」というより、「取られる」という印象で、どちらかと言えば悪人のイメージだった。しかし、私たちが納めた税が社会保障制度を通じて人々を助けていると知り、税って意外にいいヤツなんだと思った。

私が納めた税が誰かを支え、そしてまた自分も誰かの税に支えてもらっている。税にはこうした「助け合い」という尊い精神が根底にあると知り、私たちが生きていく上で税がいかに重要で必要であるかが分かった。

何があっても、前に向かって歩き出せるよう背中を押してくれる税。私が納めた消費税も、誰かの力になっていたら嬉しいな。